

第5期港南台北公園こどもログハウス指定管理者 第2回選定委員会 議事録

開催日時	令和8年8月18日（火） 午前9時00分～午前10時45分
開催場所	港南区役所6階 603号室
出席者	加瀬委員、川西委員、櫛山委員、柴田委員、田代委員（計5名）
欠席者	無し
開催形態	公開、議題2から非公開
議題	はじめに 1 指定管理者応募団体の面接審査 2 審議
面接審査・ 質疑	はじめに 委員の役職について以下のとおり修正した。 田代委員 日野連合町内会 会長 → 日野町内会 会長 1 指定管理者応募団体の面接審査 1 団体あたり10分間のプレゼンテーションを実施し、その後、質疑応答を行った。団体のプレゼンテーションの概要は次のとおりである。 《応募団体 特定非営利活動法人港南区レクリエーション協会》 ・社会教育の推進、まちづくりの推進及び子どもの健全育成を目的として活動している特定非営利活動法人であり、港南台北公園こどもログハウスについては平成18年4月から指定管理者として運営している。 ・利用者ニーズ・課題等の把握については、地域代表者による運営委員会を設置するとともに、小学校3年生から6年生の利用者による「どんぐりこども委員会」を設置し、子どもの意見を運営や事業に反映している。 ・公園を活用した野外活動や自然体験活動を実施するほか、工作活動、館内遊びなど、子ども同士が協力しながら楽しめる事業を実施するとした。 ・法人の収入は会費、補助金、助成金及び各種事業収入等により構成されており、収益は地域還元を基本方針として運営していると説明。 ・法人で長年実施している青少年育成事業や自然体験活動で培ったノウハウを生かし、こどもログハウスを子どもたちの健全育成の場として運営を行う提案であった。 [主な質疑応答] 〈委員〉スタッフの年齢構成はどのようになっているか。また、研修はどのように実施しているのか。 〈応募団体〉現在のスタッフは8名で、40代1名、50代2名、60代5名で構成している。研修は毎月1回実施しており、1か月間の事故やけがへの対応状況の振り返り、活動日誌の共有、課題の検討を行っている。また、人権や救急対応等についても年間計画に基づき研修を実施している。 〈委員〉継続的な運営を考えた場合、より若い世代の人材確保についてどのように考えているか。また、月例の振り返り以外の研修は実施しているのか。 〈応募団体〉大型修繕等による休館時には全職員による施設運営に関する研修を実施しているほか、区内施設等が実施する研修にも参加している。人材については、子育て経験や小学生の対応経験が求められることから、40代から60代の応募が中心となっている。

〈委員〉子どものゲーム機等の利用のため、Wi-Fiを無料で利用できる施設もあるが、Wi-Fiの利用についてどのように対応しているか。

〈応募団体〉スタッフの業務には利用しているが、子ども向けには提供していない。ログハウスでは身体を動かして遊ぶことを重視しており、利用者から要望があった場合もその趣旨を説明し、理解を得ている。

〈委員〉地域には「おやじの会」やおもちゃ修理ボランティアなど、子育てに関わる様々な団体が活動している。こうした子育て支援団体や地域団体との連携や協働事業についてどのように考えているか。

〈応募団体〉現在、読み聞かせボランティアや保育ボランティアと連携し、親子向け事業や読み聞かせ事業を実施している。おもちゃ修理ボランティア等との連携実績はないが、地域人材や地域団体との関わりは重要と考えており、今後も連携を継続していきたい。

〈委員〉近隣小学校の児童は施設を認知していると思われるが、学区外や離れた地域の小学校に通う児童に対してはどのように施設情報を発信しているか。

〈応募団体〉ホームページやブログを活用して事業や施設情報を発信している。また、地域活動や学校との関わりの中で、施設の活動内容を伝えるよう心掛けている。

〈委員〉中学生の利用やボランティア活動についてどのように考えているか。

〈応募団体〉他区ログハウスでは小学生までの利用としている区もあるが、港南台北公園こどもログハウスでは中学生の利用を認めている。中学生の来館は多くないが、小学校卒業後も利用できる環境としている。ログハウス内でのボランティア活動である「どんぐりこども委員会」は小学生が対象となるが、法人が実施する子ども自然体験サークルでは、中学生や高校生がリーダーとして活動している。

〈委員〉近年は保護者対応が難しくなる事例も見受けられるが、利用者対応や保護者からの苦情、トラブルにはどのように対応しているか。

〈応募団体〉これまでの運営の中で職員に対する苦情や要望を受けた事例があったが、その都度対応してきた。子ども同士のトラブルについては、学校長等と情報共有しながら対応しており、学校との連携を重視している。また、内容によっては警察とも連携して対応している。

〈委員〉「どんぐりこども委員会」はどのようなメンバーで構成され、どのような活動を行っているのか。また、子どもたちの意見は施設運営にどのように反映されているのか。

〈応募団体〉「どんぐりこども委員会」は小学3年生から6年生までの希望者で構成している。委員会では子どもたちと意見交換を行い、イベントや施設運営について意見を聞いている。これまで、イベントポスターの配色等を子どもに分かりやすく変更したほか、利用者が公平に遊べるよう遊具の利用方法を見直した事例がある。また、イベントの手伝いなどにも参加してもらっている。

〈委員〉委員会に参加した子どもたちが、将来的にこどもログハウス運営の担い手になることも期待でき、意義のある取組と感じた。

〈委員〉利用者同士のトラブルにはどのように対応しているのか。

〈応募団体〉利用者同士のトラブルについては、学校と情報共有しながら対応している。過去には学校間のトラブルや、警察との連携が必要となる事案もあった。利用者全体の安全確保を優先し、必要に応じて学校側と協議の上で一定期間利用を控えてもらった事例もある。また、注意や指導を繰り返しながら継続的に見守ることを基本としており、施設だけで対応するのではなく、学校や関係機関と連携しながら対応している。

〈委員〉第三者評価で個人情報保護について指摘を受けていたが、その後どのような対応を行ったのか。

〈応募団体〉入館時に記入している利用者カードは、けがや忘れ物等への対応のため一週間保管しているが、保管期間中は施錠できる場所で管理している。その後は廃棄する運用としており、個人情報の取扱いについて職員間でも共有している。

〈委員〉子どもの人権について、どのような考え方で対応しているのか。

〈応募団体〉子どもの話をまず傾聴することを基本としている。子どもへの声掛けや対応については、日々の活動記録や事故事例の共有を通じて職員間で振り返りを行っており、人権への配慮についても毎月1回の研修の中で確認している。

〈委員〉地域では子どもの非行が問題になっている中で、子どもたちが気軽に遊べるログハウスが地域にあることは非常によいことだと考える。地域での子どもの見守りについて、これからも関心をもって取り組んでいただきたい。その点についてどのように考えているか。

〈応募団体〉地域状況の延長線にログハウスはあると考えている。利用者のトラブル等についても同様だが、学校や地域との連携を重視し、取り組んでいくとともに、ログハウス委員会等でも共有していく。

〈委員〉事故やトラブルの発生時について、区地域振興課とのやり取りはあるのか。

〈応募団体〉事故やトラブルが発生した場合は区地域振興課に経過や対応内容を文書で報告し、必要な助言を受けながら対応している。

2 審議

第5期港南台北公園こどもログハウスの指定管理者を選定するにあたり、第1回選定委員会で定めた評価準項目に則り評価を行った結果、応募団体「特定非営利活動法人港南区レクリエーション協会」を指定候補者として選定した。

【委員からの意見・総評】

《応募団体 特定非営利活動法人港南区レクリエーション協会》

・20年以上にわたりこどもログハウスを運営してきた実績があり、地域に根差した安定的な運営が行われている点が評価できた。

・利用者トラブルへの対応や学校、関係機関との連携など、運営経験に基づく説明からも施設に対する理解の深さを感じられた。

・長年の運営の中で子どもたちの身体とこころの成長を理解し、成長段階に応じた対応ができていることが評価できる。

・Wi-Fiの利用について、無料Wi-Fiの貸し出す他施設では、ゲームでの子どものトラブルも多いと聞かれたため、最初から貸し出しをせず、子どもたちがゲームやスマートフォンではなく身体を使って遊ぶ場所としてログハウスが機能していることに安心した。

・一方で、港南台エリアから距離が離れており、施設や事業について知らない区民もいると思われることから、情報発信の充実や、施設を利用したことのない子どもや保護者への周知について更なる工夫を期待する意見があった。

・子どもを取り巻く課題は複雑化しており、個人情報保護、人権、カスタマーハラスメント、利用者トラブル等への対応については、職員研修やマニュアル整備などによる継続的な対応力向上を期待したい。

・財務面については、施設管理を主体とする団体であり大きな収益性を求める性質のものではないが、直近の財務状況に特段の問題は認められず、継続的かつ安定的な施設運営は可能である。

審議結果	・特定非営利活動法人港南区レクリエーション協会を港南台北公園こどもログハウスの指定候補者とする（459点／625点）。
------	---